

## 第 155 回県中学記録会（5/1・2）における緊急医療体制について

### 新型コロナウイルス感染症・熱中症・負傷者の対応について

炎天下で実施される本競技会を実施するに当たり、新型コロナウイルス拡大防止のみならず、熱中症等による体調不良者が出ることも十分に考えられ、それぞれの対応にいて、次のような医務医療体制を整えて競技会を実施する。

#### 1 発熱に関わる体調不良者対応

発熱者が出た場合は、医務室対応をしない。体調不良者を旧医務室（役員室4入口の通路向かい側）に移動させる。

##### ア) 朝の受付時に発熱等の症状が見つかった方が出た場合

※ 学校受付（T I C）では該当者の所属する引率者に依頼し、体調不良者を周囲の人から離れた風通しの良い場所に移動させる。該当者の居た場所の除菌・消毒を徹底し、しばらくの間、付近の通行及び入場を制限する。

① 体調不良者は、学校受付（T I C）または学校ベンチから風通しの良い場所に移動してもらう

→ 対応の方法

医務員が来るまで・引率者または総務が、万全の体制を整えて対応。  
医務員が居る場合・医務員が万全の体制を整えて対応、検診を実施。

② 感染症対応の旧医務室（役員室4入口の通路向かい側）に移動させる

再検温を行う → 平熱の場合 ・しばらく休息後、体調が回復した場合は、保護者に連絡をとるなど学校対応をお願いし、帰宅できる方についてはお帰り頂く。  
↓  
↓  
↓  
↓  
↓  
↓  
→ 高熱の場合 ・回復しない場合は、医務と総務が対策会議を開き、体調不良者の関係者と医療機関に状況を説明した上で救急対応。  
→ 高熱の場合 ・直ちに医務と総務で対策会議を開き、体調不良者の関係者と医療機関に状況を説明した上で救急対応。

③ 除菌・消毒の実施

万全の体制を整えて、体調不良者の経路を除菌・消毒を実施する。

##### イ) 大会実施中に、発熱等の風邪の症状が出た方や体調不良者が見つかった場合

※ 競技者や監督・コーチ・引率の場合は、関係者が直ちに大会本部に連絡を入れる。

※ 審判員の場合は、主任または身近な審判員が直ちに本部に連絡を入れる。

① 体調不良者は、周囲の人から離れた風通しの良い場所で待機してもらう。

→ 医務員が万全の体制を整えて対応、検診を実施。

② 感染症対応の旧医務室（役員室4入口の通路向かい側）に移動させる

再検温を行う → 平熱の場合 ・しばらく休息後、体調が回復した場合は、保護者に連絡をとるなど学校対応をお願いし、帰宅できる方についてはお帰り頂く。  
↓  
↓  
↓  
↓  
↓  
↓  
→ 高熱の場合 ・回復しない場合は、医務と総務が対策会議を開き、体調不良者の関係者と医療機関に状況を説明した上で救急対応。  
→ 高熱の場合 ・直ちに医務と総務で対策会議を開き、体調不良者の関係者と医療機関に状況を説明した上で救急対応。

③ 除菌・消毒の実施

万全の体制を整えて、体調不良者の経路を除菌・消毒を実施する。

##### ウ) 救急搬送がされた場合

直ちに、総務が地元保健所と行政に連絡を取る。その後の大会の継続実施の可否については、関係諸機関と連絡を継続した上で判断する。

##### エ) 連絡経路について

① 連絡箇所

陸上競技専門部 担当 佐藤 稔 携帯 090-1550-5393
--

茨城陸上競技協会 担当 鈴木 一美 電話 029-246-5483
---

競技場管理事務所 電話 029-202-0808
-----------------------------

茨城県庁内 新型コロナウイルス相談窓口 電話 029-301-3200
---

保健所 ひたちなか保健所 電話 029-265-5515
------------------------------------

## ②連絡の経路

### 【朝】

体調不良者 → 場所の移動 → 旧医務室 → 帰宅  
(T I C) → (大会本部) → (感染症対策係・医務員) → 医療機関

### 【競技中】

体調不良者 → 場所の移動 → 旧医務室 → 帰宅  
(T I C) → (大会本部) → (医務員) → 医療機関

### 【大会後】

新型コロナウイルス感染症を発症された方またはその関係者  
→ 大会本部に連絡 → 「行動記録表【別紙3】」で濃厚接触者を特定  
↳ 直ちに保健所等に連絡

- ・濃厚接触者と考えられる方に連絡  
→ 保健所と連携を取って頂き、指示を仰ぐ。  
※ 地元行政などと協議の上、感染者が発生した旨の情報発信を行う必要があるかを判断する。  
→ ホームページで発表する際には、個人を特定できないようにしながら事実を公表し、全体に周知するとともに不安な方への検査実施を促す。
- ・濃厚接触者と考えられる方がいないとき  
※ 地元行政などと協議の上、感染者が発生した旨の情報発信を行う必要があるかを判断する。  
→ ホームページで発表する際には、個人を特定できないようにしながら事実を公表し、全体に周知するとともに不安な方への検査実施を促す。

## 2 熱中症等に関わる体調不良者対応

熱中症等の疑いのある体調不良者については通常の医務対応を行う。  
選手においては、長距離選手の走行中の脱水症状を伴う熱中症やウォームアップ時等の熱中症が想定されるとともに、審判員も慣れないマスクやフェイスシールド・ゴム手袋等を着用してうつ熱状態を起こしやすい環境にある。また、応援生徒・引率者・保護者など、会場にいるすべての方がマスク着用によって水分不足に気づかずに脱水症状を起こす危険性ははらんでいる。場内外のアナウンスでマスク着用を呼びかけるとともに、熱中症対応も十分にアナウンスを行う。

### ア) レース中に選手・役員が熱中症の症状を起こした場合

- ① 監察員が選手・役員の異変に気づいた場合  
インカムやトランシーバー等を通じて主任に連絡、直ちに医務員が出動する。  
→ 監察主任 → 大会本部 → 新医務室(走幅跳ピット横)
- ② 長距離の競技について  
医務員のスタッフが長距離レースを観戦し、早期発見・早期対応を行う。
- ③ 応急処置について  
通常の応急処置を行い、意識混濁等危険な症状が見られる場合は、救急搬送を依頼する。
- ④ 連絡の徹底  
体調不良者の関係者、審判員であれば家庭連絡を取り、救急搬送された場合は引率また、搬送先に行ってもらおう。

### イ) うつ熱による体調不良者について

※ マスク着用により表情が読み取れないので、次の点について審判員間でも仲間の体調に気を配る。

- ① 体調異変の見分け方  
「以上に汗をかく」 脱水症状の症状で、水分補給をさせる  
「汗が出なくなった」 うつ熱による体温上昇の始まり、即医務室へ  
「寒がっている。悪寒がする。」 感覚以上を起こしており、即医務室へ  
「暑がっている」 マスクを外させ、水分補給を  
「ボーとしている、反応が薄い」 まず、新医務室へ搬送して体温チェックと保水  
「ふらふらしている」 まず、新医務室へ搬送して体温チェックと保水  
「倒れた」 即、新医務室へ搬送
- ② 体調不良時は、「自ら」申し出る  
大人は我慢強い方が多いので、なかなか自分から体調不良を訴えないが、いつもと違うときは、マスクを外して水分補給をし、衣服を緩めるようにする。  
→ 周囲の審判員や出場選手の関係者に申し出る。

## 3 負傷等に関わる体調不良者対応

競技中の負傷、競技用具運搬に伴う負傷の対応は、通常の応急処置を行う。  
負傷の状況に応じて、救急搬送を行う場合もある。  
連絡体制や対応は、上記に同じ。